

# 介護職員 温かな日常つづる

札幌市老人福祉施設協議会 (札老施協、109施設加盟) は、特別養護老人ホームやケアハウスなど、市内で介護の仕事に従事する職員の体験談を集めた冊子の制作を進めている。介護の仕事の魅力

力を広くアピールすることを目指した初の取り組みで、加盟施設に呼びかけ、心温まる20編のエピソードが集まった。特養ホームの職員が書いた4編の要約を紹介する。(佐藤宏光)

## 札幌市老人福祉施設協がエピソード集 4編紹介



集まったエピソードを見せる札幌市老人福祉施設協議会の加藤慶彦会長(左)と友高美保副会長

### 力をくれるもの

40代女性

90代のKさん(女性)は4月からみどりに入っている。目を閉じていることが多く、食事や水を運んでも「食べたくない」「飲めません」と拒否が続いた。  
ある日、「しよっぱいものが食べた」という一言を聞き逃さなかったスタッフは、歯がなくても食べられるふんわり触感のせんべいを買ってきた。それを契機に「おせんべいとって」と自分で希望するように。次に「昆布茶が飲

### 夫婦の時間

30代女性

担当のユニットに入居しているご夫婦は、2人とも認知症。食事やトイレにも介助が必要で、お互いのことを認識しているかは、やや不明。職員間では「もう、お互いのことを忘れていくのかも」と話していた。  
そんなある日、突然主人が奥さまに「俺の嫁なんだ。」と涙出ちゃうとうれしそう。会話が少ない中でも通

### 桜の木のお話

40代女性

施設内で四季を感じてもらおうと、入居者と共にフロアの飾り付けをしている。桜色の花紙で花を作っていたんだDさん。  
「私ごっついのできないの。指先が曲げられなくなって長いから」と話したが、職員が声を掛けながら、時間を掛けて一枚ずつ花びらを広げ、でき上がる。「昔ならもっとワツと作れたの」ととてもうれしそうだった。  
Dさんは一日一つつつ花を作ることが日課に。作業では毎回「作ったことがないの」と手順を忘れていたが、桜が開花するころ、フロアにはDさんの作った花紙いっぱい桜の木が完成。入居者とフロアで「お花見」ができた。感謝を伝えるとDさんは「本当に私が作ったの？」と驚いていた。  
新緑の頃には、緑色の花紙で作った葉がいつばいの木が完成。面会の家族を見るなり、「私が作ったの。すごいでしょ」ととてもうれしそう。その姿に私も温かい気持ちになった。

### はじめましてでも

40代女性

ショートステイの利用は一月間に数日、数カ月には一度なごさま。認知症の方は、また「はじめまして」からのスタートで、利用者との関係に悩んでいた。  
Kさん(女性、認知症)は、月に1回10日間ほどの利用で「毎回はじめまして。思い出せないことがある度、入浴介助や排せつ介助などの度に「申し訳ありません」「ごめんない」と何度も謝られる。

### 現場のやりがい知って

エピソード集について、札老施協の加藤慶彦会長(69)は「介護の仕事はやり、厳しいけど、マイナスイメージが強い。現場の職員が感じているやりがいを知ってほしかった」と制作理由を説明する。  
友高美保副会長は「人の生活を支える素晴らしい仕事、職員のを支える素晴らしい」と

8日 札幌チカホで催し

「」が8日午前10時から午後5時まで、札幌駅前通地下歩行空間・北2条広場で開かれる。札老施協主催。エピソード集の冊子が配布されるほか、いくつかの作品の朗読や、筆者のトークショーもある。介護職員の写真展や各種器具の展示、介護に関する相談会もある。冊子、イベントの問い合わせは札幌市社会福祉協議会、電話011-614-3334(5)へ。